

あなたの“小さな”物語 vol.23 作品募集 応募用紙

作品タイトル			
応募者氏名	ふりがな	応募者筆名 (ペンネーム)	ふりがな
文字数	原稿枚数		
応募時の年齢	生年月日		
住 所	〒		
電話番号	メールアドレス		

[注意事項]

- ・手書き原稿は、400字詰原稿用紙1枚以上7枚以下、縦書き。
- ・パソコン等で作成した原稿は、A4横置き縦書き、フォントサイズ11、片面印刷。
- ・本文に作品タイトル、氏名は記入しないでください。
- ・各ページ余白右上に通し番号(ページ数)を明記してください。
- ・作品集への掲載に選ばれ、パソコン等で本文データが作られているものは、データでの提出をお願いいたします。
- ・郵送応募の方は、この用紙を作品に添付してご応募ください(コピー可)。

✓ アンケートにご協力ください

1. あなたの“小さな”物語 作品募集を
何でお知りになりましたか(複数回答可)。

☐ チラシ・ハガキ〔入手先〕

☐ 広報春日井

☐ 財団ホームページ・SNS

☐ 財団メールマガジン

☐ ダイレクトメール

☐ 学校からのお知らせ

☐ 新聞〔紙名〕

☐ 友人・知人からの口コミ

☐ その他〔

2. これまでに応募したことがありますか。

☐ 今回がはじめて

☐ 以前にも応募したことがある
〔1回／2～4回／5回以上〕

3. 今回、応募した理由をお聞かせください
(複数回答可)。

☐ 優れた作品が作品集として発行されるから

☐ 前回も応募したから

☐ テーマを見て書きたいことがあったから

☐ その他〔

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

主催・問合せ

公益財団法人かすがい市民文化財団
email：life-stories@kasugai-bunka.jp ／ TEL：0568-85-6868
HP：www.kasugai-bunka.jp ／オンラインストア：kasugai-bunka.stores.jp



公式HP

キリトリ線

Life Stories Project

2025年
10月15日(水) 必着

応募締切

第23回テーマ

忘れる／忘れない

食べて忘れた。泣いても忘れられなかった。
忘れていたけど、思い出した。
忘れるもんかと、記憶の底に沈ませた。
「忘れる／忘れない」にまつわる
小さな物語／人生のワンシーンをお寄せください。
我を忘れる、台詞を忘れる、待ち合わせを忘れる、
初心忘るべからず、忘れ形見、忘年会の思い出……。
掬いとらなければ忘れてしまう営みも、
離れない記憶も、あなただけの物語。

◎原稿400～2,800字以内

◎優れた作品を本にまとめます！

◎全国からの応募あり

生きることを味わえるような、そんな文章、待ってます！

Message from Selectors

小さな自分史を書いてみませんか。忘れてはいけ
ないのに忘れた、忘れたいのに忘れられない。
人の心はいろいろです。誰にでもある、そんな
思い出を聞かせて下さいませんか。

芳賀倫子(日本自分史センター相談員)

人は忘れるのが常。少し前の出来事でさえ心も
とない。振り返ってみませんか。記憶の奥にし
まいこんだ「忘れもの」探し。忘れられない思
い出にするために。

小松原康平(元・中日新聞記者)

「あなただけの物語」を綴じたこの本は、なぜ
か見知らぬ誰かの涙を誘い、我々に明るい希望
を届けてくれる。私はこの小さな本にそこはかと
ない魅力を感じます。次の書き手はあなたです。

古橋敬一
(フィールドワーカー、愛知学泉短期大学講師)

優れた作品は本になる！

優れた作品を本にまとめ、2026年3月末頃に当財団から発行。
掲載者には、作品集を進呈。

A 6 無 線 綴 じ し 約 1 0 0 ペ ー ジ

作品集「あなたの“小さな”物語
vol.23

作品集「あなたの“小さな”物語
vol.22

募集要項

募集内容

テーマ「忘れる／忘れない」に沿った、
あなたの“小さな”物語／人生のストーリー／自分史

応募資格

不問(年齢・国籍・経歴は問いません)

応募規程

- ・応募は1人1点のみ。原稿は400字以上2800字以内。
- ・応募者の書き下ろし作品で、同じ作品を他に応募したり、他の出版物(自費出版刊行物・サークルの作品集等非商業誌を含む)に発表していない作品に限ります。
- ・注意事項を必ず読んだ上で、ご応募ください。

応募締切

2025年10月15日(水)必着

選考

1次選考

全作品を読み、2次選考にふさわしい作品を選出

【読み手】
山川愛(かすがい市民文化財団プロデューサー)

2次選考

1次選考で選出された作品を読み、各審査員が配点。審査員および、かすがい市民文化財団事務局による審議にて良質な作品を決定

【審査員】
芳賀倫子(日本自分史センター相談員)
小松原康平(元・中日新聞記者)
古橋敬一(フィールドワーカー、愛知学泉短期大学講師)

審査発表

2025年12月末までに、応募者全員に結果を通知

応募方法

Googleフォームまたは郵送でご応募ください。

Googleフォームで応募する

←こちらのQRコード、またはHPからリンクしているGoogleフォームに必要な事項を記入、原稿を添付し応募。原稿はPDFまたはWord等のドキュメントのみアップロード可。

※アップロードできない方は、下記メールに原稿をお送りください。
件 名：「作品名」と「氏名」
メール：life-stories@kasugai-bunka.jp

郵送で応募する

このチラシ裏面の応募用紙を切り取ってご使用ください。(コピー可) HPからPDFもダウンロードできます。

応募先 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44
文化フォーラム春日井
かすがい市民文化財団「Life Storiesプロジェクト」係

[注意事項] ◎応募作品は返却いたしませんので、本人控えのために応募の際はコピーをとってください。◎応募作品は、応募者が執筆したオリジナル作品に限ります。なお、AIにより生成された作品は応募できません。◎応募作品は第三者の著作権、プライバシー権、名誉権、パブリシティ権その他いかなる権利をも侵害していないものとします。登場人物のプライバシーには十分配慮してください。◎応募作品の著作権は、応募者に帰属します。ただし作品集掲載作品については、応募者は応募作品を①主催者がその発表のために必要な利用(作品集作成及び販売、展示、朗読など)をすること ②主催者が当事業を広報するための印刷物やホームページ等で利用すること ③主催者が自分史関連事業のために応募作品を基にした二次的著作物を創作し、使用することについて、同意したものとします。上記の事項以外に新たな事項が生じた場合は別途協議するものとします。◎複数の作品を作品集にまとめるため、主催者の判断で、応募作品の一部を修正することがありますのでご了承ください。◎選考基準および選考過程に関する質問・お問い合わせはご遠慮ください。◎作品集は主催者が販売しますが、原稿料等対価のお支払いはいたしません。◎応募者の個人情報は、主催者が文化事業のために使用し、それ以外に使用または第三者に提供することはありません。ただし、選考結果に応じて、筆名(氏名)・年齢・性別・在住市区町村を公表する場合があります。◎応募者は、応募の時点で募集要項に同意したものとします。◎募集要項および注意事項に違反する場合は、選考の対象となりません。なお、掲載決定後に違反が判明した場合は、掲載を取り消すことがあります。複数応募の場合も、選考の対象となりません。◎応募者ご本人が同意した場合に限り、取材等を行うことがあります。

Life Stories Projectの様々な取り組みをご紹介します

あなたの“小さな”物語

その人だけの時代が、その人だけの景色がみえる、プライベートな物語。全国から集まった自分史作品の中から、審査を経て本に収録しています。



vol.21
「わたしのよりみち かえりみち」
2024年3月刊
10歳〜81歳の14篇を収録



vol.22
「待つ」
2025年3月刊
8歳〜88歳の15篇を収録

vol.22
「待つ」より

私のおすすめ感想文



ON READING
黒田杏子さんの
好きなお話

山内夏美さん（27歳）
「白の時間」

病院の真っ白な床や壁、無機質な光、ひとけのない静けさ、そうした「白の時間」のなかで、本を読みながら自分の名前が呼ばれるのを待っていた山内さん。私は同じ体験をしてはいないけれど、小学生の頃、共働きたった親の帰りを待ちながらひとりで本を夢中で読んでいて、気づくと空が暗くなっていた時のことを思い出しました。あの時の、世界から取り残されたような心細さと、不思議な安心感を今も覚えています。

山内さんは「何かを待つ時

間というのは、限りなく許された空白である」と書かれています。いつでもどこでもスマホで繋がることのできる現代において、山内さんがいう「許された空白」はなくなってしまうたかもしれない。けれど本を読んだり、ことばを書くことは私たちが「白の時間」に戻してくれます。それは「ひとり」になる時間。山内さんだけでなく、本書に作品を寄せられた皆さんそれぞれに、豊かな「ひとり」の時間があるのだと思います。

ON READING
〒464-0807
名古屋市千種区東山通5-19
カメダビル2A & 2B

かすがい市民文化財団
STORESで販売中! (各500円)



書いて伝える営みは尊く、物語は誰しもの人生をめぐる。今度は「あなた」の小さな物語を聞かせてください。「待つ」おわりにより抜粋
編集担当：山川愛（かすがい市民文化財団）

交流会を開きました

あなたの“小さな”物語 vol.22「待つ」に掲載された作者にお声がけし、交流会を開催しました（2025年3月23日）。



vol.23「忘れる／忘れない」作品集の完成後にも、交流会の開催を予定しています。

参加者の声

自分の周りで書いてる人に出会う機会がないので、普段は関わらない職業の方や、生活をされている方の話を直接伺うことができ、とても参考になりました。



年代の違いを感じましたが、勉強になりました。若い方が、こういう文章を書かれていて驚きました。老人であっても、明日へ向かって頑張ろうと思います。



それぞれ全然違う作品でしたが、一つ一つがすごく面白かったです。書いている時に、たまに嫌になっちゃうことがあったけど、今日はいろんな人の話を聞けて、ますます作文が好きになりました。



INFORMATION



第6弾 待ち違いレストラン

年に一度

参加者募集&公演開催
演劇×自分史

物語や人物を演じる「演劇」と、自身の人生を見つめ直す「自分史」のコラボレーション企画。市民からさまざまなエピソード（自分史）を聞き取りそれをもとにプロの演出家が一つの台本を創作。市民参加による上演スタイルが特徴的。

●これまでの上演作品

- 第1弾「この場所、自分史」2018年
- 第2弾「旅旅（ふたたび）」2019年
- 第3弾「春よ恋」（未上演）2020年
- 第4弾「おかしな証」2023年
- 第5弾「もういっかい!」2024年
- 第6弾「待ち違いレストラン」2025年

●第7弾 参加者募集中! ~2025年9末まで



講師：
有門正太郎さん



屋外で開催した回

対面

不定期開催

モヤモヤを話す、聞く

あなたのモヤモヤを話したり、他人のモヤモヤを聞いてみませんか。知らない誰かと話をしながら、現在を生きる「わたし」を見てみましょう。話すことで何かが解決するわけではありませんが、「モヤモヤ」を口にしてみることで、その姿が浮かび上がってくるかもしれません。

コミュニケーションの重要性が叫ばれる中、「わたし」自身の様々な声を聞くことから、モヤモヤを解きほぐす手がかりを探ってみましょう。

「それぞれの、まとまらない話を聞けたのが良かった」「自由に話せる空間と、話したい内容を心地よく話せた」という参加者の声を受け、複数人によるお話を続けています。



芳賀倫子さん

対談／オンライン

相談受付中

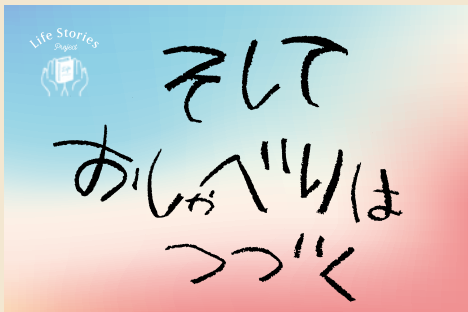
自分史相談

「自分史を書くにはどうしたらいいか」など、自分史についてのご相談に一对一で応じています。

●自分史相談員：芳賀倫子／シナリオライターとしてテレビ・ラジオ各局の番組構成や脚本執筆。またNHK文化センター「シナリオ講座」「エッセイ&自分史講座」を始め各地で文章講座の講師を務める。日本放送作家協会会員。

●相談は要事前予約です。ご来館前にお電話ください。zoom等でのオンラインも承ります。

●毎月、第2・第4火曜日の開催です。休館日のため繰り越す場合もあります。最新情報はHPをご確認ください。相談時間は、13:00～、14:00～、15:00～、16:00～で、各45分間です。



オンライン

毎月5日、15日、25日に配信

ポッドキャスト番組

そしておしゃべりは続く

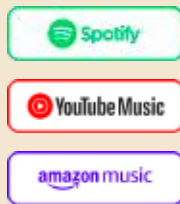
ひとりで悩んで考えて固まっても、おもしろくない。思っていることを口にする＝おしゃべりするというごく自然な動きがあって、考えも定まっていくんだと思う。もの書き・インタビューアーの尹雄大さん、フィールドワーカーの古橋敬一さんと、たわいもないこと、思ったままのことをなんとなくおしゃべりしながら、リスナーのみなさんとシェアするPodcast番組です。



尹雄大さん



古橋敬一さん



自分史とは

歴史家の故・色川大吉氏さんが毎日出版文化賞を受賞した『ある昭和史―自分史の試み』（一九七五年）で体系化した用語。自叙伝ではなく「一般市民」に焦点をあてたことで、世間に知られるようになりまし。なお、生活綴方やふだん記をはじめとした庶民の文章運動は、国内外で脈々と行われてきたと言われています。

春日井市と自分史

一九九九年、春日井市は新しい文化施設をオープンするに当たって「市民が主体となった文化芸術活動」を推進しようと、自治体として初の「日本自分史センター」を開設。かすがい市民文化財団が運営する当センターには、全国から約八千冊の自分史が集まっています。また二〇二四年からLife Stories Projectとして、書くだけではない自分史の可能性を探り、さまざまな事業展開を行っています。

自分史センター利用案内

全国から寄贈される自分史図書を、文化フォーラム春日井二階でご覧いただけます。貸出は、一冊二冊十五日間です。

お寄せください

みなさまに閲覧いただく自分史作品の寄贈をお願いしています。あなたご自身が「これは自分史だ」と思うものを一冊お寄せください。

※時折、自費出版の本をお寄せいただく方がいらっしゃいますが、自分史と自費出版は別ものです。

自分史サークル

春日井市内の自分史サークル市民が主体となって活動している4つのサークルがあります。

- ・かすがいエッセイクラブ
- ・まいしやの会
- ・春日井東部自分史友の会
- ・日曜ペンクラブ



様々な取り組みは、日々アップデートしています。かすがい市民文化財団のHPや各種SNSをチェックしてください！